



MOBILE SUIT
RX-78-4

GUNDAM GO4

E.F.S.F. PROTOTYPE
MOBILE SUIT OF SPACE BATTLE USE



地球連邦軍
試作型空間戦闘用モビルスーツ
RX-78-4「ガンダム4号機」
1/100スケール
マスターグレードモデル

RX-78-4 GUNDAM GO4

E.F.S.F. PROTOTYPE MOBILE SUIT OF SPACE BATTLE USE

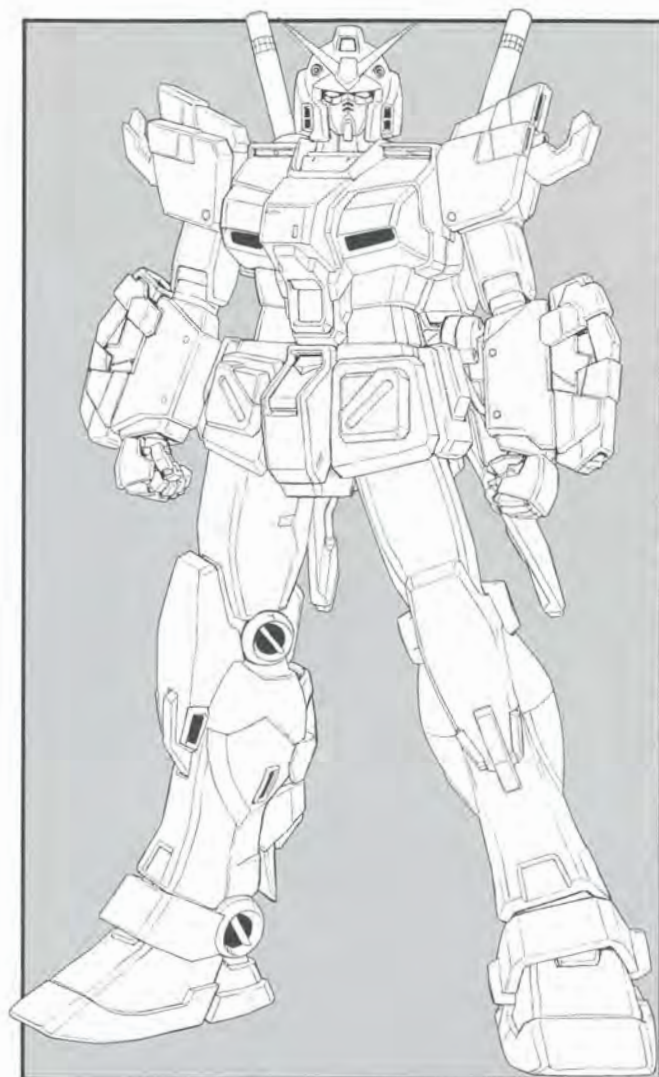


地球連邦軍
試作型空間戦闘用モビルスーツ
RX-78-4「ガンダム4号機」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2003 MADE IN JAPAN



0120466



RX-78-4 GUNDAM

サイド7の1パンチコロニーにおいてトライアルを行っていた“ガンダム”を始めとするRXシリーズは、原則的に3機ずつ建造され、それぞれ1~3号機として、ある程度独自の設計が施されていたと言われている。MS(モビルスーツ)の開発計画は、連邦軍においては最高ランク(AAA=トリプルエー)の機密事項でもあったため、開発や量産の目的が立つまで、その詳細を知る者は軍上層部でもごく一部に限られていた。“ガンダム”のロールアウトから間もなく、MS開発計画そのものの情報は制限が緩和され、MSを必要とする各部門が(計画全体の進捗状況を鑑みの上ではあったものの)独自に機体の開発と調達を行うことが可能となった。いわゆる“4号機”以降の“ガンダム”が複数存在するのはこのためであると言われている。

もともと、連邦軍全体の方針としては、本格的な標準機的设计完了と共に生産ラインが既存のものから転換される予定であったが、技術士官や各方面軍司令部などの要望もあって、極端な設計変更や規格外品でなければ、独自の設計に基づく機体の試作や量産は、担当部局の裁量に任されることとなった。そのため、本来の生産計画は変更され、緊急性の高い地域への早期配備や、後の技術発展を見越したカスタマイズなどが可能となったのである。こういった事情から、投入から3ヶ月程度の期間内でGM系のMSに多数のバリエーションが存在したり、また、開発初期の段階で独自のコンセプトに基づく複数のリファレンス機が存在することとなったのである。同様に、ある程度の開発能力を持つ研究所や工場なども各地に点在することとなり、兵装や外装、オプション規格などの混乱や乱立を招いたものの、このことが結果的には連邦軍全体のMS開発・生産能力の底上げに繋がったのだと言えるだろう。

かくして、サイド7において収集されたガンダムのトライアルデータを基に再設計が施された1~3号機“以降”のガンダム系の機体群は、生産性を優先した

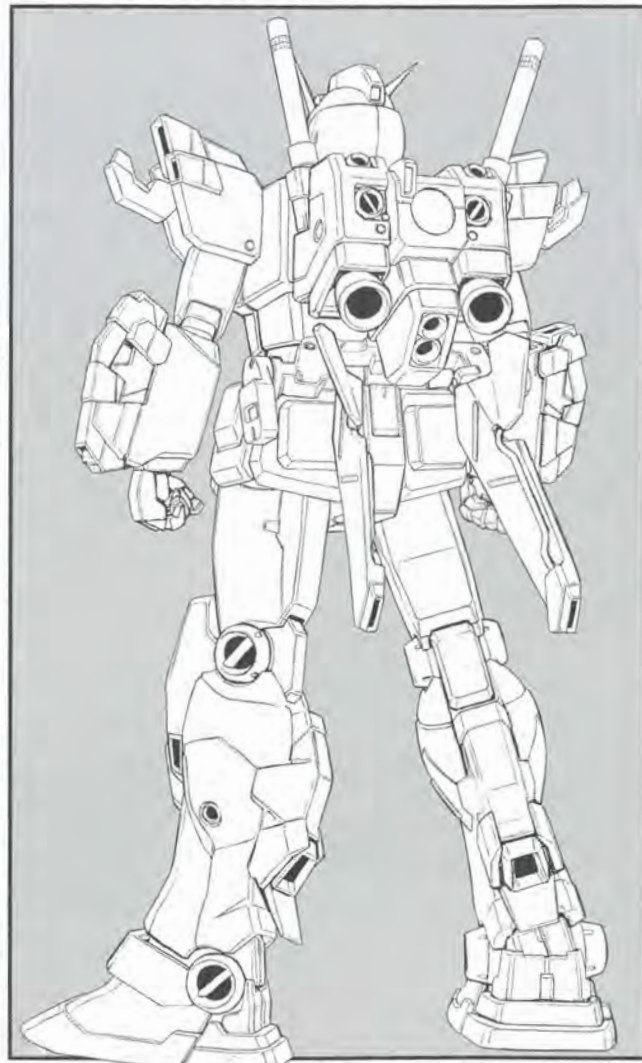
GM系の機体とは異なり、いわゆる“高性能化”や“特殊化”を指標として開発されることとなったのである。

MSの本格的な投入に伴い、公国軍への反攻を開始した連邦軍は、公国軍の宇宙要塞ソロモンやア・バオア・クー、ひいてはジオン本国攻略の主戦力として使用する目的で、すでに開発途上にあつたガンダム4号機および5号機を宇宙戦仕様様のタイプ4、タイプ5に改装することを決定した。主な改装点は、あくまでRX-78-2を基本としつつ、ランドセルの換装と各部サブスラスターの増設、プロベラント容量の増加などを施すことで、空間戦闘時における機動力を40%程度向上させている。また、オプションのプロベラントタンクなどを装着することで稼働時間も延長され、長時間の戦闘、特に要塞攻略などにおける多大な戦果が期待されていた。

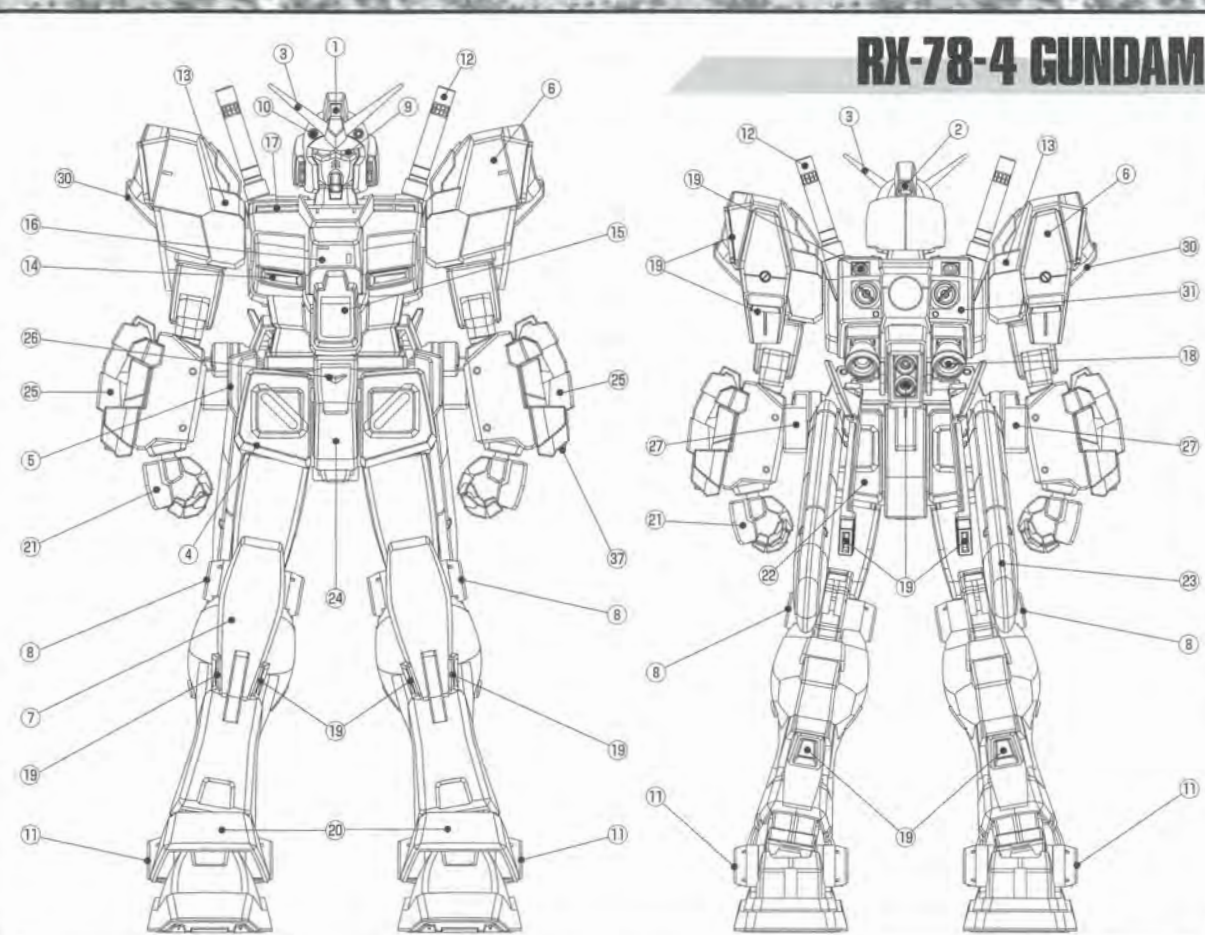
その一方で、コア・ブロック・システムは、代替装備の完成やコストの問題などから採用は見送られることとなり、それによって余裕ができたスペースを冷却システムなどに使うことでジェネレーター能力や稼働効率が向上し、より強力なビーム兵器の運用が可能となっている。それにより、武装はビーム・ライフルを強力にしたハイパー・ビーム・ライフルに変更されたのに加え、ビーム・ガンを左右腕部に一門ずつ装備している。

この改装は4号機および5号機の双方に施されたもので、4号機にはさらにメガ・ビーム・ランチャーを装備する計画があつた。このため、4号機のジェネレーターにはさらに高出力化されており、それにあわせて冷却システムなども強化されたため、胸部の冷却フィンなどの形状が5号機と異なっている。ただし、エネルギーCAPの容量不足の問題が解決されておらず、実際に運用可能であるかどうかの判断が下されないまま、出撃後も調整が続いていたと言われており、実戦で運用されたかどうかは定かではない。

同機はWB級準同型強襲揚陸艦「サラブレッド」を旗艦とする「第16独立戦隊」に5号機などとともに配備され、U.C.(宇宙世紀)0079年12月2日に南米ジャブロー基地より出撃した。隠密行動を主任務とするこの艦隊の目的は、公国軍の月面基地グラナダと宇宙要塞ソロモンの補給路を寸断することにあつた。ちなみにサラブレッドは、かつて大改修のためにジャブローでドック入りしたWBに隣接するヤードで艦装を受けていた艦であるという説もある。

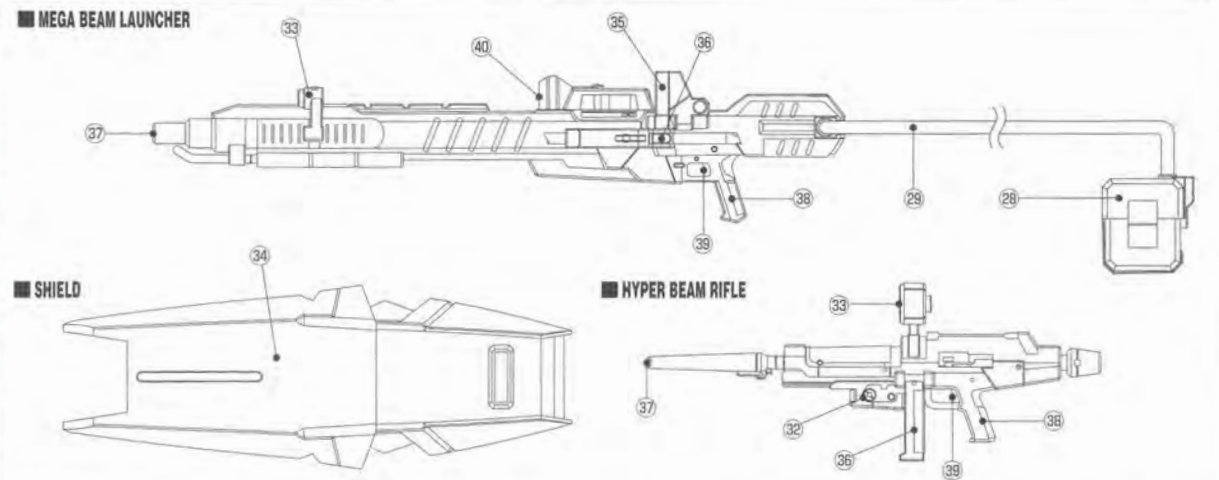


Conceptual illustration : Katoki Hajime



- | | | | | |
|----------------|----------------|---------------|----------------|-----------------|
| ①メインカメラ | ⑨デュアルセンサー | ⑰サブインテーク/ダクト | ⑳ビーム・ガンユニット | ㉓サイトセンサー |
| ②リアカメラ/センサー | ⑩60mmバルカン | ⑱メインスラスター | ㉔エンブレム | ㉔シールド |
| ③マルチブレードアンテナ | ⑪アングルジョイントアーマー | ㉒サブスラスター | ㉕マウントラッチ | ㉕ショートレンジセンサー |
| ④フロントアーマー | ⑫ビーム・サーベル | ㉑アングルサポートユニット | ㉖エネルギーユニットバック | ㉖フォアグリッブ |
| ⑤サイドアーマー | ⑬シールドアーマー | ㉑マニピュレーター | ㉗エネルギーサブライケーブル | ㉗マズル |
| ⑥コンボジットタンクユニット | ⑭インテーク/ダクト | ㉒リアアーマー | ㉘ホルドドラッチ | ㉘グリッブ |
| ⑦ニーアーマー | ⑮コクピットハッチ | ㉓プロベラントタンク | ㉙ランドセル | ㉙トリガー |
| ⑧ニージョイントアーマー | ⑯メンテナンスハッチ | ㉔ベンチレートボックス | ㉚センサーユニット | ㉚ロングレンジセンサーユニット |

注) この機体は、南米ジャブロー基地の工廠において建造されたもので、各部改装に前後して、オーガスタ基地より派遣された次世代宇宙空間用高機動MSの開発及び実験部隊のスタッフによる調整を受けたものである。同機および5号機は、そのスタッフとともにWB級準同型強襲揚陸艦サラブレッドに配備された。



Parts Name
Parts List
Head Unit
Arm & Leg Unit
Body Unit
Weapons
Final Assembly

パーツリスト

A1パーツ (スチロール樹脂: PS)

B1パーツ (スチロール樹脂: PS)

B2パーツ (スチロール樹脂: PS)

Cパーツ (スチロール樹脂: PS)

D1パーツ (スチロール樹脂: PS)

D2パーツ (スチロール樹脂: PS)

Fパーツ (ABS樹脂: ABS)

Eパーツ (スチロール樹脂: PS)

Gパーツ (スチロール樹脂: PS)

Hパーツ (スチロール樹脂: PS)

SB1パーツ (スチロール樹脂: PS)

PC-126プラス (ポリエチレン: PE)

カラーシール..... 1枚
 マーキングシール..... 1枚
 ガンダムデカール..... 1枚
 ビスTP2×6(座付)..... 2個
 リード線..... 1本
 (塩化ビニル樹脂: PVC)

注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

(組み立てる時の注意)

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

※このキットの組み立てには+ (プラス) ドライバーをしますので別にご用意ください。

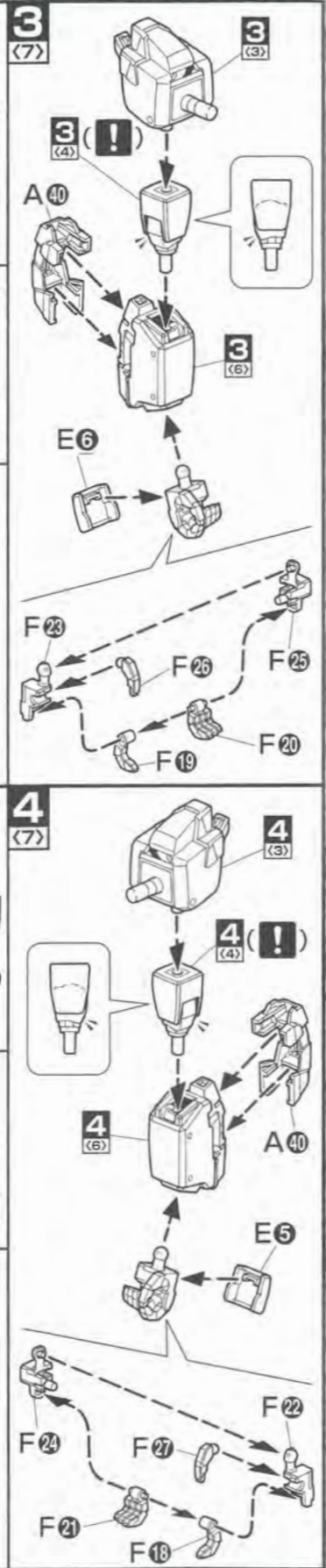
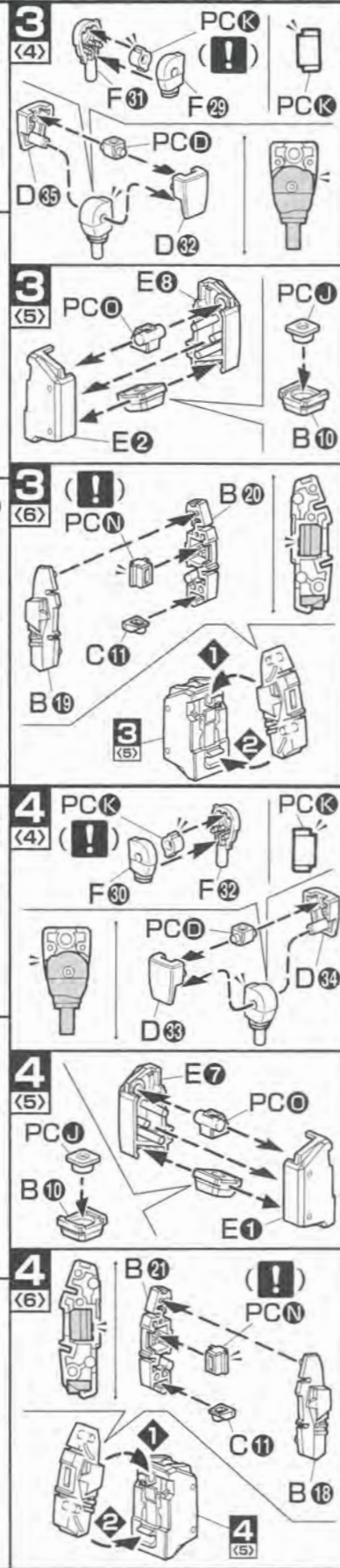
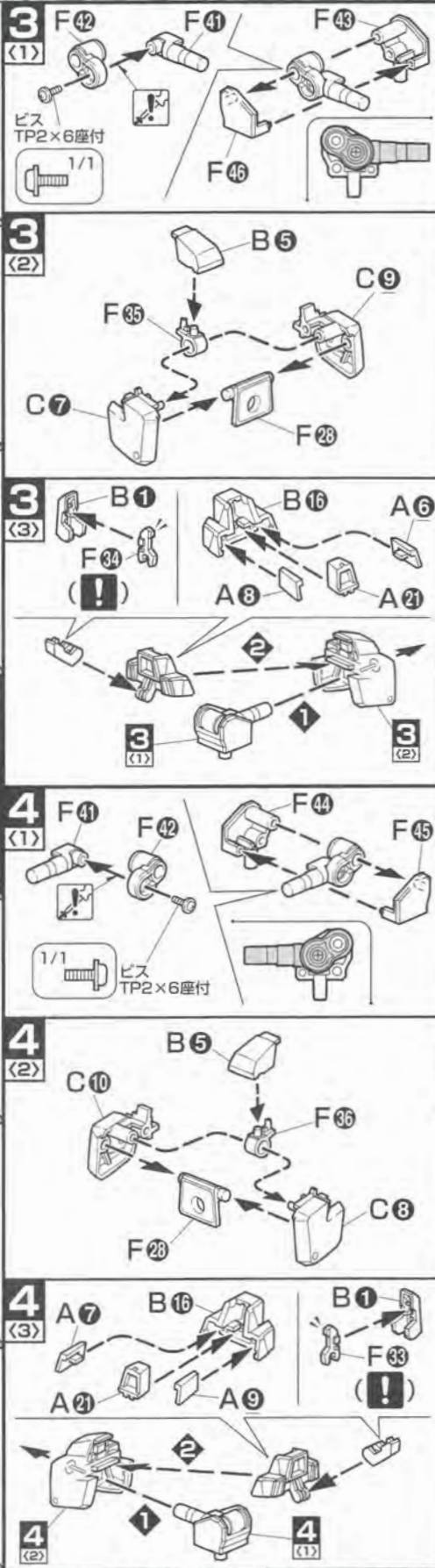
・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る時	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

1 (1)

1 (2)

1 (3)

2



HEAD UNIT

RX-78-4 ガンダム4号機の頭部は、基本的にはRX-78-2“ガンダム”に準じた部材やデバイスが使用されているが、次世代高性能機用にアップデート済みのユニットが多く使用されている。

RX-78-4の頭部は、RX-78-2とほぼ同等の光学端末および演算装置が搭載されているが、連邦軍製のMSの生産がある程度進展して以降のものを使用しているため、信頼性や耐久性が向上しているほか、宇宙空間における戦闘に特化する



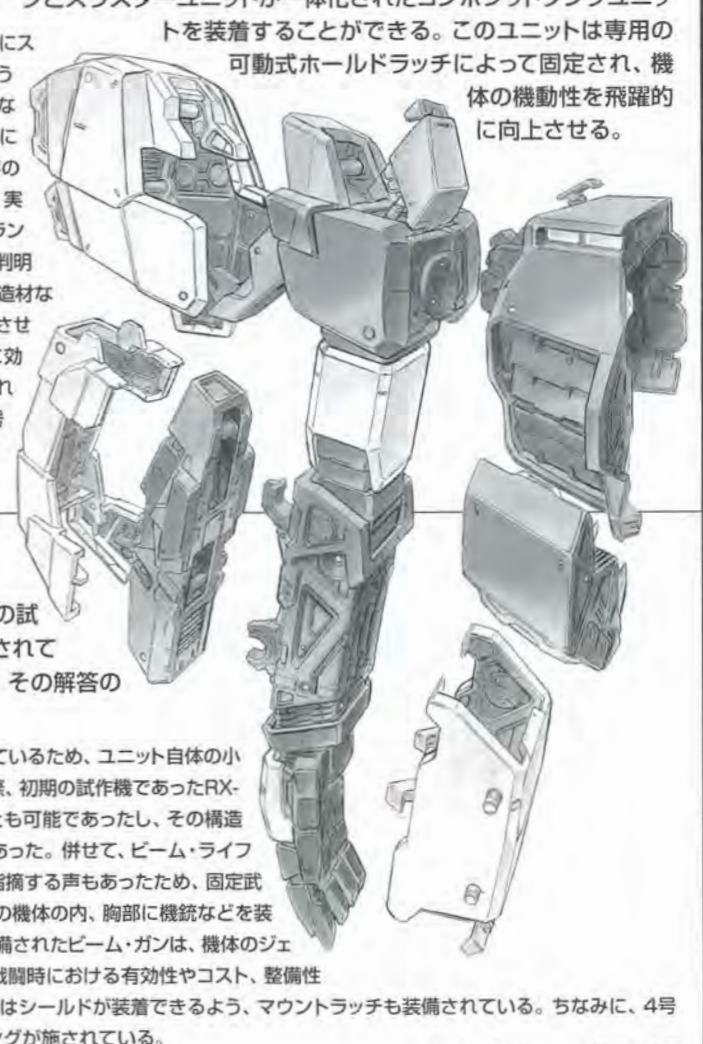
ることが決定してからは各パーツが空間走査用のスペックに調整された上で実装されている。また、各種のデバイスやセンサー類は、機能を維持したままでの小型化が達成されたものが採用されており、コア・ブロック・システムに依存しないデータ収集や稼働ソフトの検証に必要な副次的コ・プロセッサフレームおよびモニタリング用装備などのサブシステムが新たに装備されている。特に、4号機と5号機の連携が当初から企図されていたため、強力なデータリンクおよびモニタリングに応じたアーキテクチャーが構築されている。また、デュアルセンサーのカバーや頭部バルカン砲など、弾頭の形状や材質、炸薬のエマルジョンなども見直しを検討されはじめており、既存の機体との互換性を確保するか、新たな規格を採用するかといった過渡的な機体となっている。



SHOULDER UNIT

宇宙空間においてMSの機動力を向上させるためには、単純にスラスターやプロペラントの設置数や積載量を増やせば良いというものではない。それによって自重が増えてしまえば元も子もないからだ。本来、MSの優位性は、四肢とスラスターを有機的に連動させるAMBAC機動によって、推進剤の消費を抑え、既存の機動兵器よりも効率的な機動が得られることにあった。ただし、実際の運用に伴って、当初は過剰と思われたレベルでのプロペラント積載やスラスターの増設などがそれなりに有効であることが判明し、また、各部のコンストラクションそのものや装甲材および構造材などの改善もあって、機体重量の増加と機動力のバランスを向上させながら、さらに追い込むことが可能となった。つまり、目的別に効果的な各種オプションのノウハウやシミュレーションが蓄積されたことにより、さらなる機能向上が可能となったのである。4号機および5号機に採用されたコンジットタンクユニットと脱着機構を含むシステムは、その端的な例なのである。

4号機のショルダーユニットは、必要に応じてプロペラントタンクとスラスターユニットが一体化されたコンジットタンクユニットを装着することができる。このユニットは専用の可動式ホールドラッチによって固定され、機体の機動性を飛躍的に向上させる。



ARM UNIT

4号機には、先行していたRX-78-2ガンダムなどの試作機の実戦投入によって得られた運用データが反映されており、いわゆる固定武装の強化も懸案となっていた。その解答のひとつが、腕部に装備されたビーム・ガンである。

連邦製MSは、その可動部分にフィールドモーターを使用しているため、ユニット自体の小型化に伴って、ユニットの容積を減らすことが可能だった。実際、初期の試作機であったRX-78-2“ガンダム”自体、腕部にサブスラスターを装備することも可能であったし、その構造そのものをスリム化したジム系の機体の量産体制も整いつつあった。併せて、ビーム・ライフルなどの携行武装を消耗、損壊した場合の戦闘能力の低下を指摘する声もあったため、固定武装を追加装備する試みが行われることとなった。RX-79系の機体内、胸部に機銃などを装備した機種が存在したのもそのためである。4号機の腕部に装備されたビーム・ガンは、機体のジェネレーター出力の向上に伴って試験的に装備されたもので、戦闘時における有効性やコスト、整備性の検証のために実装されている。このビーム・ガンユニットにはシールドが装着できるよう、マウントラッチも装備されている。ちなみに、4号機および5号機の四肢にはデフォルトでマグネット・コーティングが施されている。

Mechanism illustration : BEE-CRAFT



FIRST MATCH

U.C.0079年12月2日、ジャブローからWB8機連同強襲機群「サラブレッド」が出撃し、ルナツーで合流した2隻のサラミスと共に、サラブレッドを旗艦とする「第16独立戦隊」を構成した。この戦隊は高度な「隠航」装備による隠密行動が可能であった。その主任務は、チェンバロ作戦の発動に伴い、まずは公国軍の月面基地グラナダの動向を監視することであった。ガンダム4号機=GD4を駆るのはベテランパイロット、ルース・カッセル中尉。ガンダム5号機を駆るのはテストパイロットあがりのフォルド・ロムフェロー中尉である。これまでの訓練を通じ、ルースはフォルドの技量を認めつつも、それゆえに戦闘をどこかゲームのような感覚でとらえていることに不安を感じていた。折しも第16独立戦隊はグラナダへの途上で公国軍の偵察機隊と遭遇。3隻のムサイとMS部隊に先制攻撃を仕掛ける。初の真戦に向かうフォルドを気遣うオペレーターにさえフォルドは反発する。「ムチャするな？それこそムチャだぜ！」重機のザクを罵ったフォルドはムサイめがけ突進する「ひゃっほー！」「浮かれ過ぎだ!!フォルド」その在り様にルースはフォルドを認めるのだが……。



メガ・ビーム・ランチャーは腰部マウントラッチに取り付ける事が出来る。

機体の各部には、注意書き等のマーキングシールをセット。

WATCH AND WAIT FOR A DUTY

U.C. (宇宙世紀) 0079年11月30日。公国軍は連邦軍の総司令部がある南米ジャブロー基地攻略のため大規模な降下作戦を展開した。基地に侵入した公国軍の特務部隊によるMSハンガー爆破未遂など、いくつかの重要施設への被害はあったものの、天然の要害を利用した基地の攻略は困難を極め、また、連邦軍と最強を謳われるガンダムをはじめとするホワイトベース部隊の奮戦もあり、公国軍は結局所期の目的を果たすことなく、大敗を喫していった。一方、この戦闘の最中、ジャブロー基地の一面で密かに出撃の時を待つ2機の最新鋭MSがあった。RX-78-4 ガンダム4号機と、RX-78-5 ガンダム5号機である。宇宙戦用に改裝された2つの機体が戦う場所は、すでに地上よりはるか上空の漆黒の闇の中のみであると定められていた。彼らにとって、地上での喧嘩は、とても面白い出来事だったのである。



MEGA BEAM LAUNCHER

U.C.0079年12月24日。何度かの戦闘を経た第16独立戦隊とサラブレッド隊は、グラナダからソロモンへ向かう艦隊を発見した。ソロモン攻略戦を展開中の連邦軍主力艦隊は戦力を削ぐことができない。サラブレッド隊は、単独でこの艦隊を撃破する命令を受ける。「境界クリア。ルース・カッセル出るぞ」「フォルド・ロムフェロー、行って来るぜ!」この日の戦闘ではどうか敵艦隊を撃破できたサラブレッド隊だったが、度重なる戦闘でルースは自分たちの戦力の不足を痛感していた。そんな状況の中、サラブレッド隊は航行中のソロモン宙域で大規模な敵艦隊を捕捉してしまう。「…今の状態では、まともにやっけて勝てる戦力じゃないな」「どうするんだよ？それでも戦うしかないだろ」このままでは遠るフォルドもサラブレッド隊も返ることができない。「あれを……使ってみるか」クルーを脱き伏せ、ルースの4号機はメガ・ビーム・ランチャーを携え、フォルドの5号機も専用のジャイアント・ガトリングを構え、本来の計画通りの2機編成によるフォーメーションで出撃する。しかし、ランチャー用のエネルギーユニットははるかにテストも行われておらず、この実戦での使用が始めてとなる。果たしてシミュレーション通りの威力を発揮できるのだろうか？不安を感じながらも、ルースはこの難局を乗りきるために肝を決めた。

RUCE CASSEL



ルース・カッセル
30歳、中尉。
ガンダム4号機のパイロット。もともとは宇宙戦闘機乗りだったが、1年戦争開始と同時に新兵器(MS)の宇宙戦闘でのテストパイロットに任命される。戦いの恐ろしさを知っており、常に冷静であろうとする。



Illustrated by HIROSHI OUSAKA

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(ガンダム4号機1用、その他カラーセット)をお使いください。

- 本体等ホワイト部の塗装色。
ホワイト(90%) + イエロー(7.5%) + ブラウン(2.5%)
※またはガンダムカラー ホワイト12
- クツ等ブルー部の塗装色。
コバルトブルー(100%) + ブルー少量
※またはガンダムカラー ブルー17
- インテーク等イエロー部の塗装色。
イエロー(40%) + ホワイト(30%) + オレンジ(30%)
- 関節等グレー部の塗装色。
ニュートラルグレー(100%)
- ハイパー・ビーム・ライフル等ライトグレー部の塗装色。
ホワイト(50%) + ブラック(30%) + スカイブルー(20%)
- エネルギーユニット等ライトグレー部の塗装色。
ホワイト(90%) + ブラック(10%) + パープル少量
- メガ・ビーム・ランチャー動力パイプ等レッド部の塗装色。
シャインレッド(100%)
- 目等クリアグリーン部の塗装色。
クリアグリーン(100%)
- センサー等イエローグリーン部の塗装色。
イエローグリーン(100%)

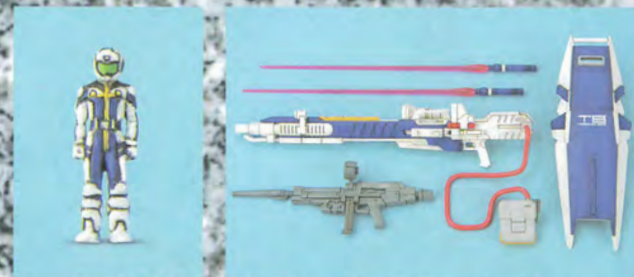


背部ランドセルは、装甲の脱着が可能。内部メカディテールも精密に再現。

FRONT VIEW



REAR VIEW



1/100スケールのパイロットは精密な造形で再現。

ビーム・サーベル、ハイパー・ビーム・ライフル、メガ・ビーム・ランチャー、シールド等の各種装備をセット。

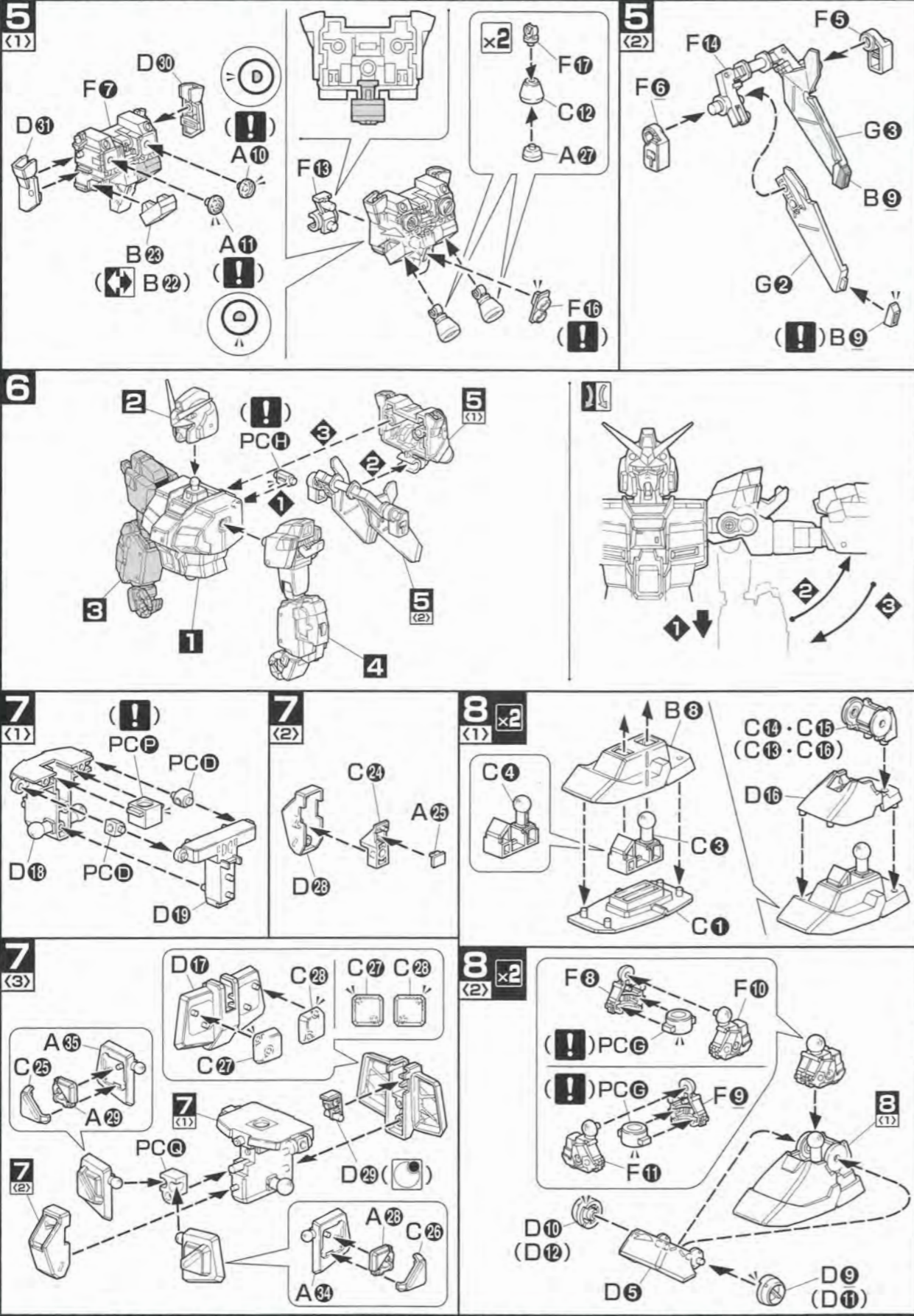


前腕ビーム・ガン、脚部スラスターは取り外し可能。接続部分のディテールを精密に再現。



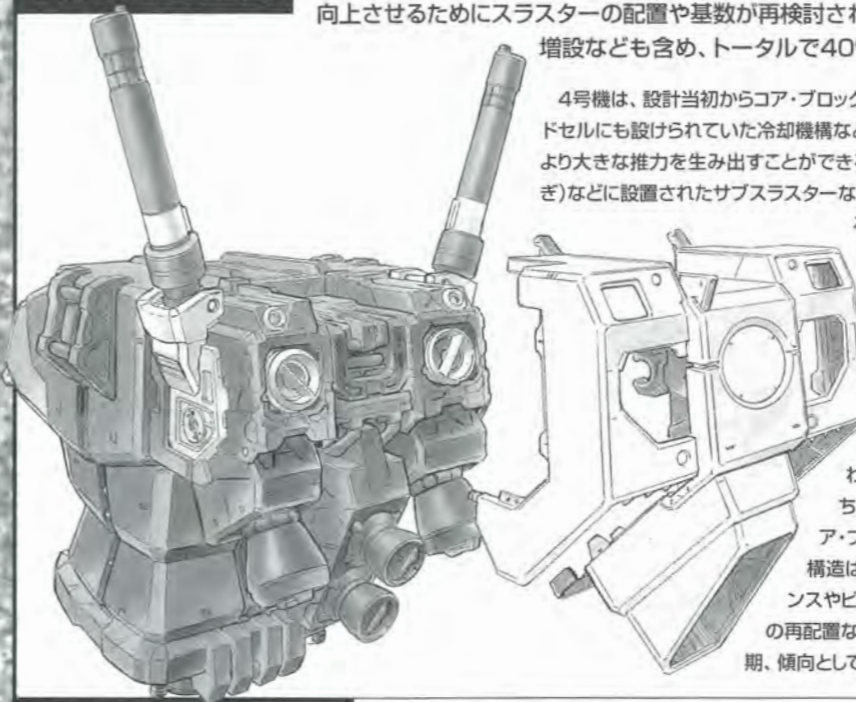
肩関節部の引き出し可動によりメガ・ビーム・ランチャーを両腕で構える事が可能。

Parts Name
Parts List
Head Unit
Arm & Leg Unit
Body Unit
Weapons
Final Assemble



RANSEL

4号機が背部に装備するランドセルは、ジェネレーターの出力向上に伴って、機動性を改善、向上させるためにスラスターの配置や基数が再検討されており、機体各部へのサブスラスター増設なども含め、トータルで40%もの機動力向上を成し遂げている。

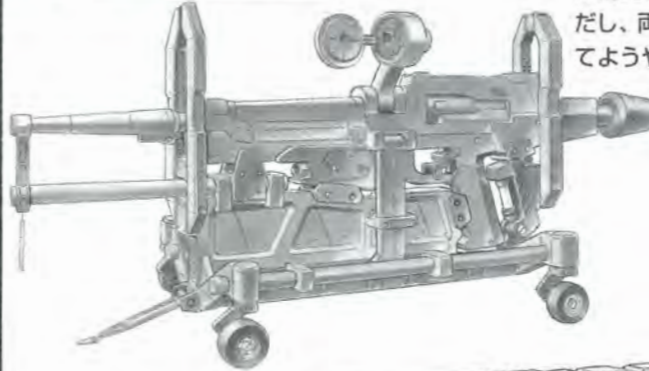


4号機は、設計当初からコア・ブロック・システムの不採用が決定していたため、ランドセルにも設けられていた冷却機構などを大幅にボディへ移設することが可能となり、より大きな推力を生み出すことができるようになった。しかも、肩部や脚部(ふくらはぎ)などに設置されたサブスラスターなどと連動してメインスラスターの負担を軽減することが可能となったため、整備性の向上もある程度見込まれていた。ただし、四肢をはじめとする機体各所には標準でマグネット・コーティング処理が施されているため、可動部分にかかるストレスそのものは少ないものの、諸動作に伴う応力による各部の構造疲労は逆に増える傾向があり、特にパイロットのセンスや機体に対する気遣いが問われるMSとなってしまったと言われている。

ちなみに、この機体で得られたデータを元に、コア・ブロック・システムを持たない機体のランドセル構造は一部で見直されることとなり、ボディとのバランスやビーム・サーベルのエネルギーサプライデバイスの再配置などが検討され、連邦製MSのランドセルは一時期、傾向としてはさらに大型化していくことになるのである。

WEAPONS

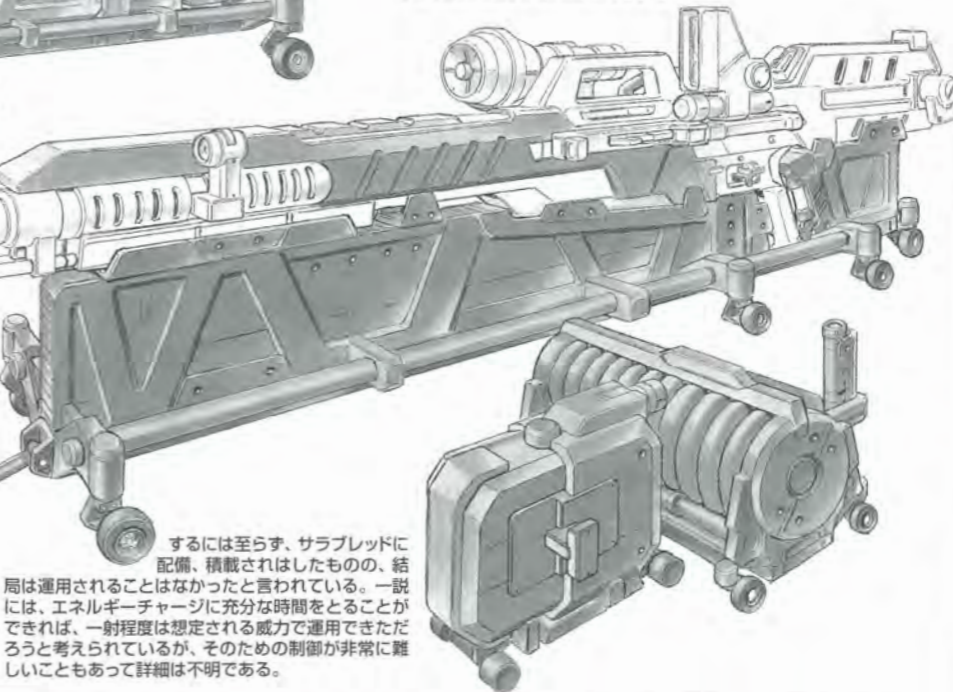
4号機および5号機は、既存の機体よりもジェネレーター出力が向上しているため、それに対応した武装が用意されていた。ただし、両腕のビーム・ガンは有効射程が短く、近接戦闘時ににおいてようやく有効であったと言われている。



ハイパー・ビーム・ライフル
4号機および5号機に共通の携行武装。両機は既存の機体よりジェネレーターが高出力(RX-78-2"ガンダム"のおよそ40%増し)であるため、通常のビーム・ライフルより強力なものをドライブすることができる。エネルギーCAP技術の実用化で公国軍に先んじた連邦軍の面目躍如といった武装。連射能力はともかく、威力そのものは、後のGPシリーズが装備するものに匹敵すると言われている。

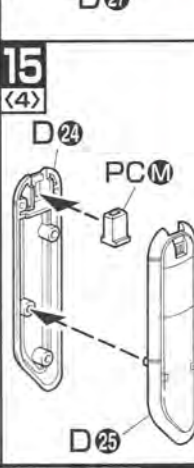
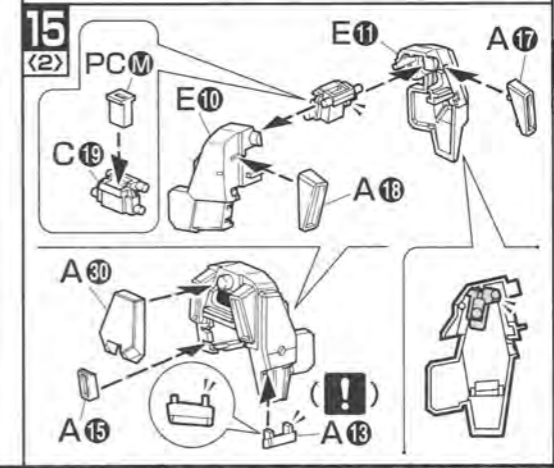
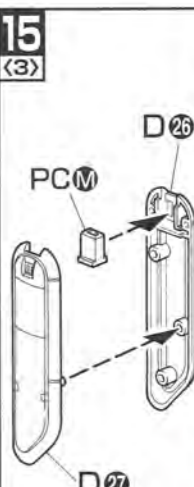
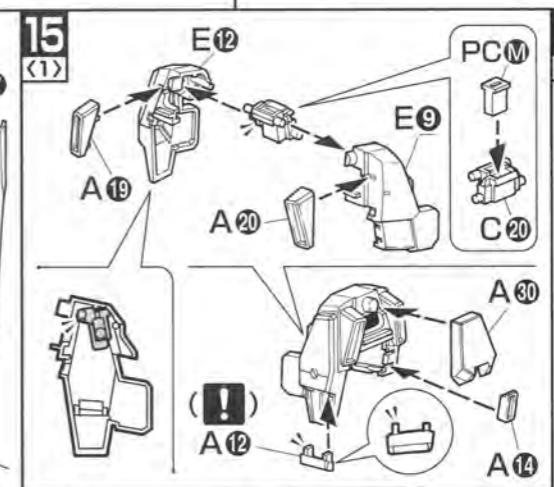
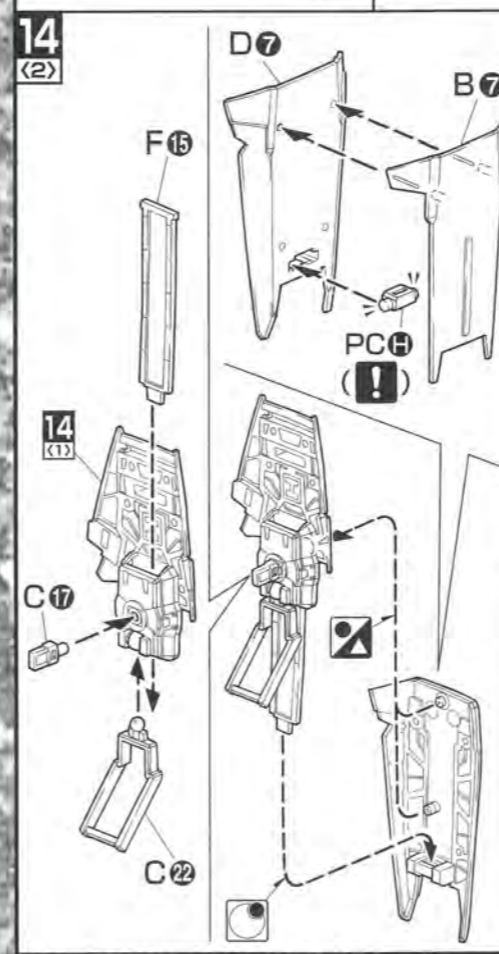
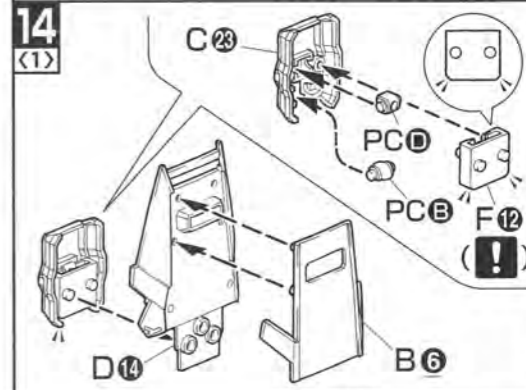
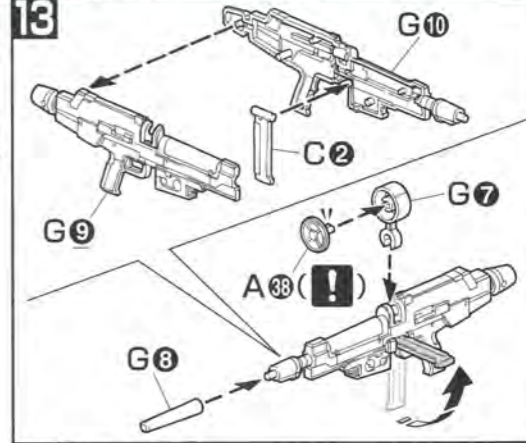
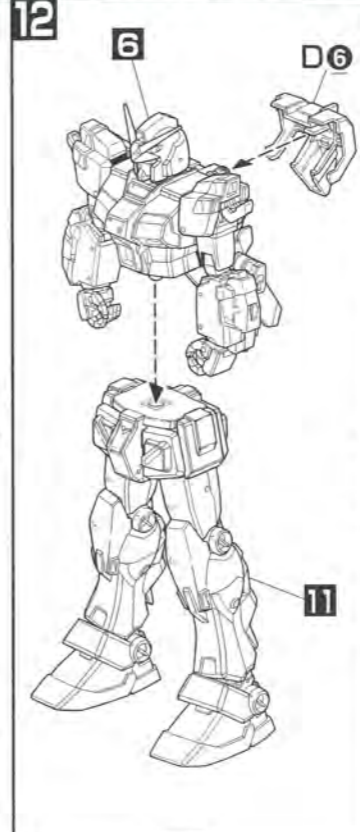
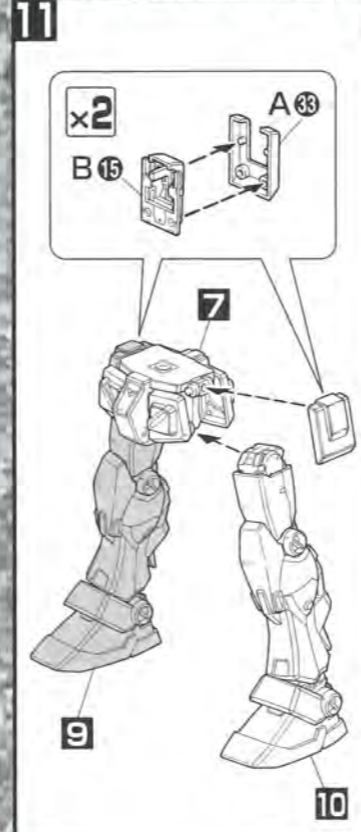
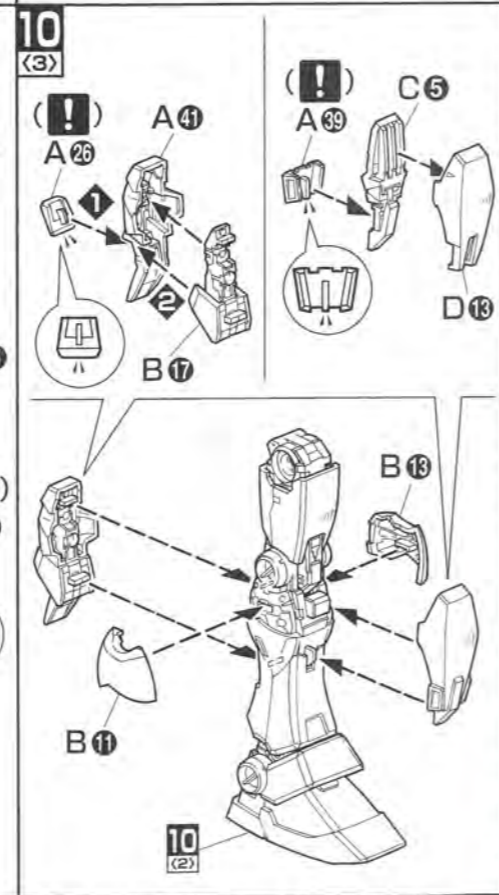
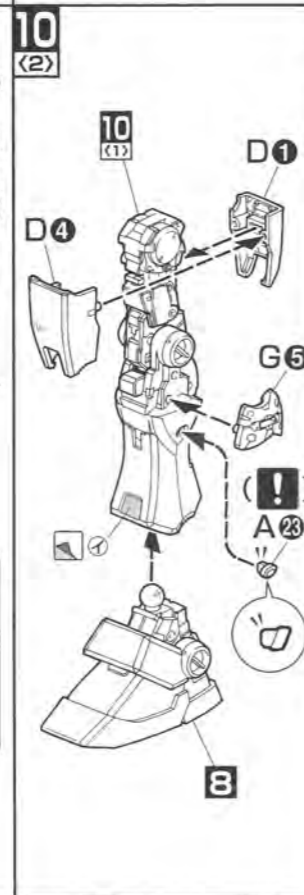
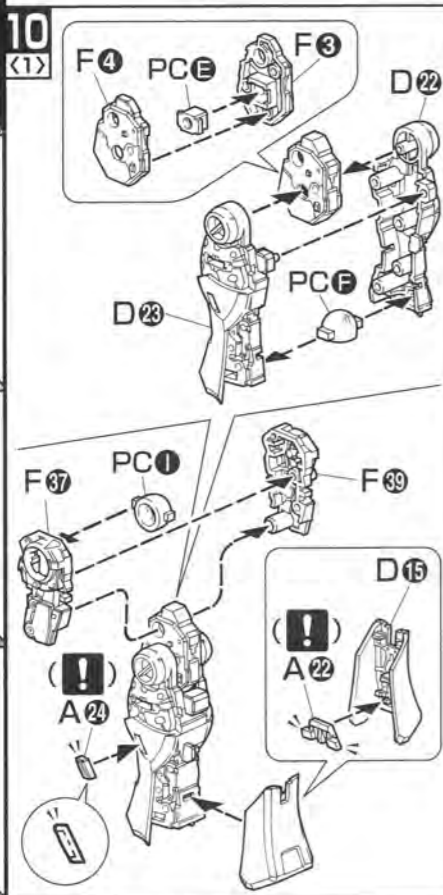
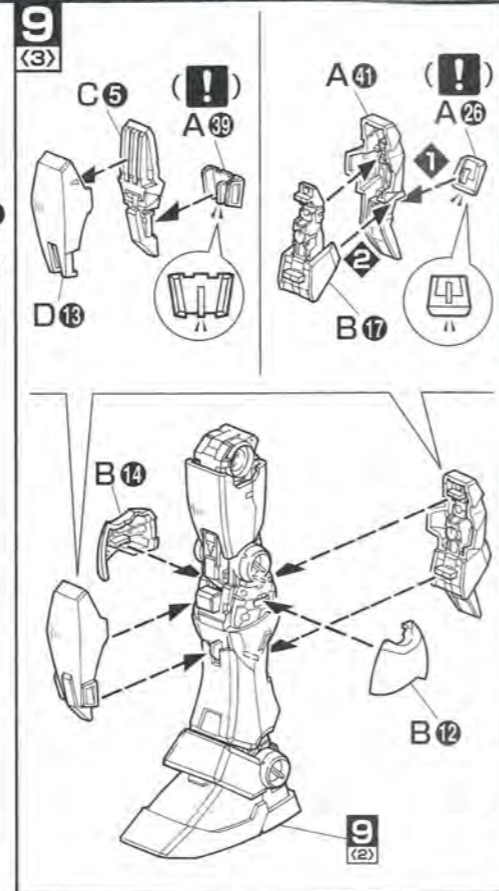
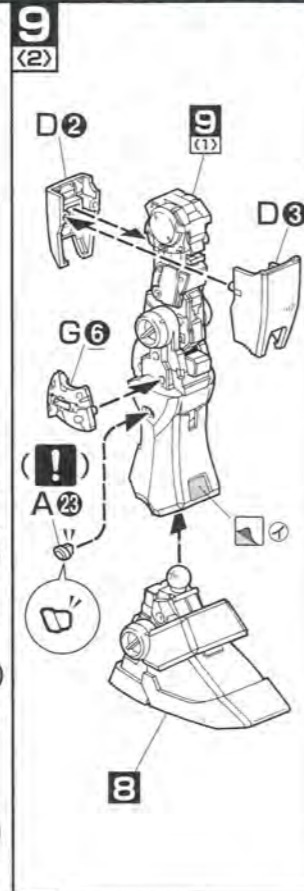
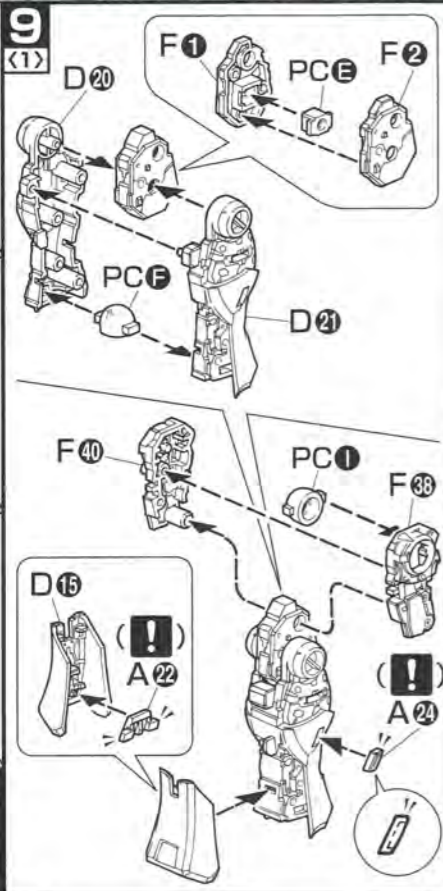
メガ・ビーム・ランチャー

4号機はメガ・ビーム・ランチャー構想の実験機としての側面もあり、5号機をさらに上回るジェネレーター出力を獲得するため、冷却機構などが強化されており、そのため胸部フィンなどの形状が異なっている。ただし、それでも機体内蔵するジェネレーター局は運用されることはなかったと言われている。一説には、エネルギーチャージに十分な時間をとることができれば、一射程度は想定される威力で運用できたと考えられているが、そのための制御が非常に難しいこともあって詳細は不明である。



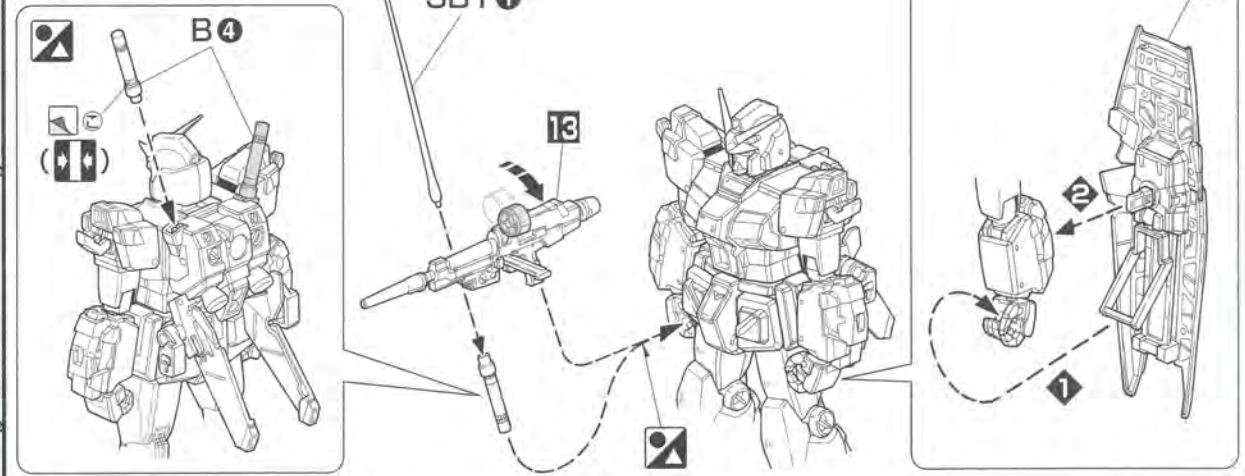
するには至らず、サラブレッドに配備、積載されはしたものの、結局は運用されることはなかったと言われている。一説には、エネルギーチャージに十分な時間をとることができれば、一射程度は想定される威力で運用できたと考えられているが、そのための制御が非常に難しいこともあって詳細は不明である。

Parts Name
Parts List
Head Unit
Arm & Leg Unit
Body Unit
Weapons
Final Assemble

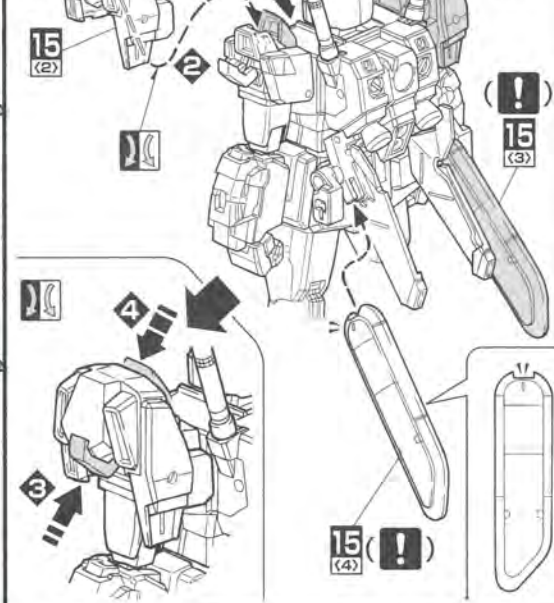


Parts Name
Parts List
Head Unit
Arm & Leg Unit
Body Unit
Weapons
Final Assemble

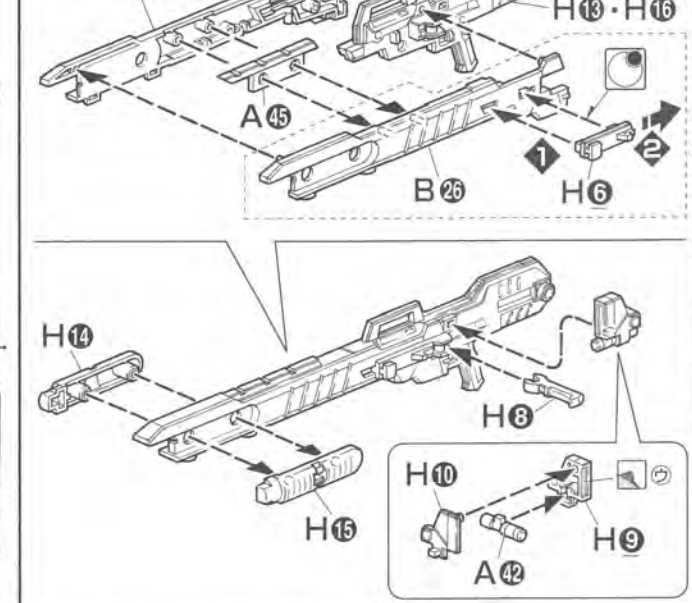
16
(1)



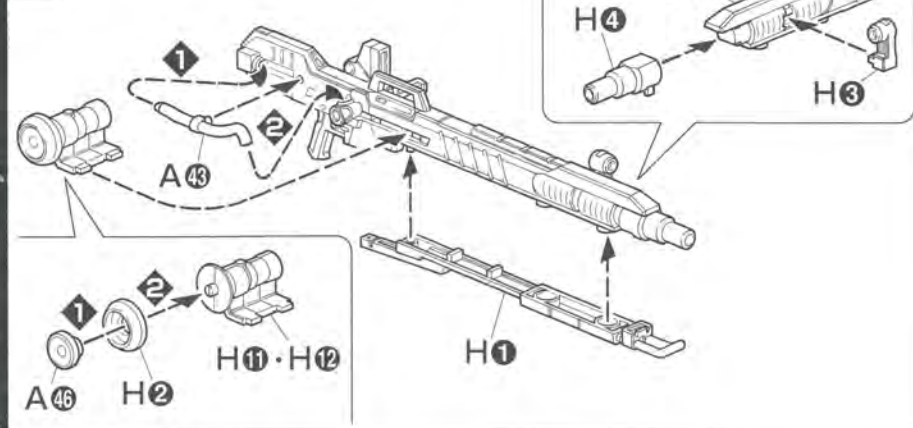
16
(2)



17
(1)

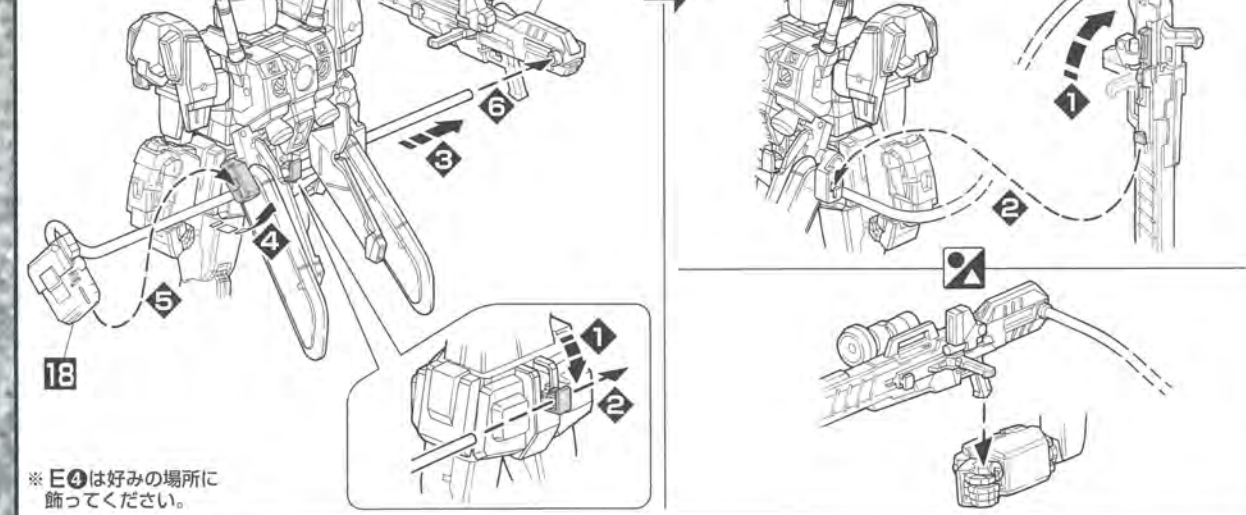


17
(2)

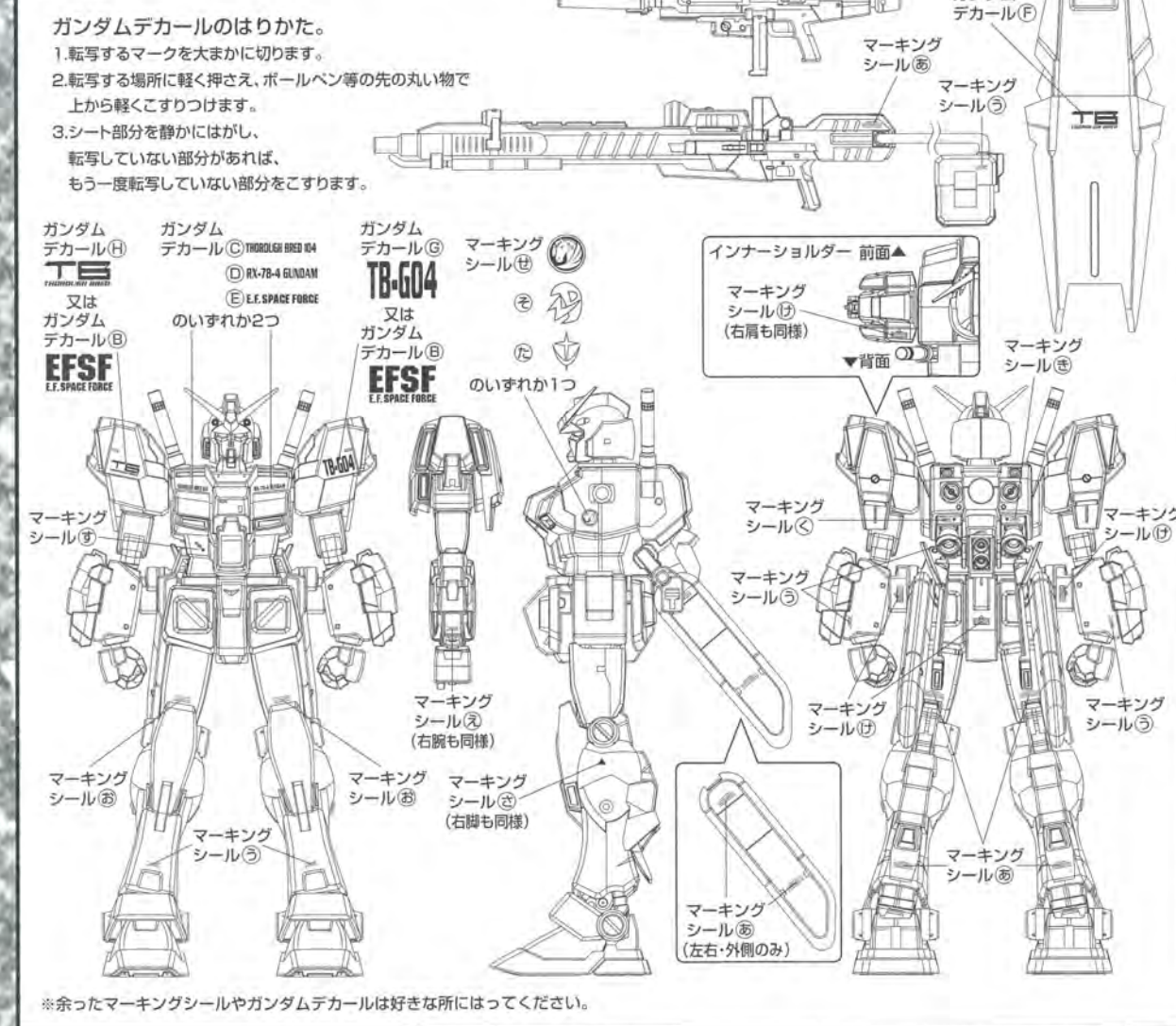


14

19



Seal 下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはり位置を確認してください。
 (シール) ガンダムデカールののりかた。
 1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

15